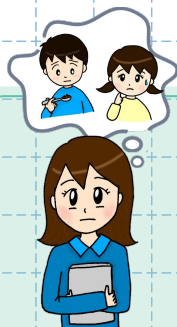


～職員間で事前に共有しておこう～



先生としても「食べない子にどうしたらいいか」等は、なかなか学ぶ機会が少ないものです。給食指導はつい“自分の過去の体験”をベースに指導をしてしまいがちになりますが、指導内容によっては、事故やトラブルを引き起こすこともあります。今月号では、食べない子を指導する時の大切な事前知識や心構えをまとめました。

1 無理に食べさせることはNG 事故の原因にも

苦手なものを無理に食べさせると、トラウマや、事故に繋がる可能性があります。

2 「ひと口食べる」は、 思っているよりもハードルが高い

苦手なものは、まずはにおいを嗅いでみる、ぺろっとしてみる、ごく少量を提案するなど、ハードルを下げた提案をしてみましょう。

3 用意するのは大人、 食べる選択をするのは子ども

献立を考えたり、調理をするのは大人です。一方で、最終的に食べる食べないの選択をするのは、子どもが決めることです。食べることを強制してはいけません。

4 食べないのはわがままではなく、 理由があると考え

食べないのはわがままと考えてしまうと、適切な対応や指導が出来なくなってしまいます。「どんな理由で食べないのか」を考えるようにしましょう。※1

5 残食は食べられない理由を 見つける大切なヒント

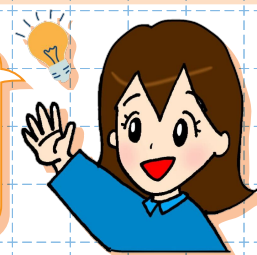
残したことを怒っても、食べられない理由があるので、すぐに食べられるわけではありません。むしろ残食は、食べられない理由を見つけるヒントになります。※1

6 誤嚥や窒息事故への 対応については事前共有、 いつでも確認できるように

気をつけていても誤嚥や窒息の事故が起きる可能性はゼロではありません。緊急時の対応については、事前共有を怠らないこと、いつでも確認できるようにしておきましょう。※2

※1: Vol.33号のフローチャート&チェックリストを活用すると、食べられない理由を見つけやすくなります。

※2: Vol.39号では食事の詰まりに対して、すぐに対応について確認できる資料を作っているの、掲示しておくのもオススメです。



詳しい解説記事は
こちら！

